

# 未来 mirai

一人一人が夢をもち  
未来を生きる力のある子



琉球大学教育学部附属小学校

## 学校だより 第10号

発行 令和6年12月24日(火)

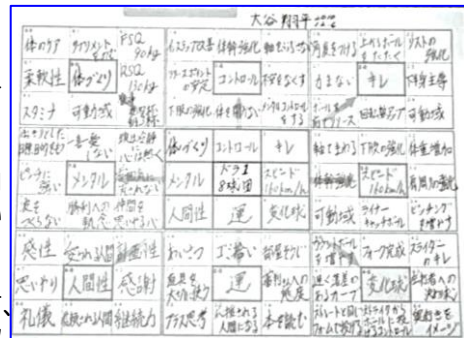
文責 校長 石川 博久

二学期前半は、学校全体の取り組みとして、10月の体育学習フェスティバル、11月の公開研究発表会がありました。また学年では、11月には3年生が体育館を災害時の避難所と見立て段ボールを活用した1泊2日の「防災」を踏まえた宿泊学習を実施しました。12月には6年生が「平和」をテーマとした沖縄本島北部(伊江島、本部町、名護市)での2泊3日の修学旅行も実施しました。どの学級・学年においても、一学期以上に日常の学習活動や学級活動を計画的に取り組み、子供たち一人一人のレベルアップ、学級・学年としてのレベルアップが見られました。下記は、10月~12月に、校長から子供たちにお話した内容です。ぜひ、学級やご家庭で二学期前半を振り返る際の資料にしてください。では、明日からの12日間の冬休みを安全に楽しく過ごしてください。良い年をお迎えください。1月6日(月) 二学期後半開始日 元気に登校してください。

### ◆目標・具体的な行動目標を意識して行動する!

10/10 二学期始業式の校長の式辞においては、一学期の振り返りを踏まえた二学期の目標を設定することについて、アメリカメジャーリーガー(プロ野球選手)である大谷翔平(おおたに しょうへい)さんが高校1年時に立てた目標(右図:目標達成マングラート)のこを取り上げ、目標を達成するためには「目標をもつこと」と「具体的な行動目標をもつこと」が大切で、そのことを日々意識して行動してもらいたいことを確認しました。

世界中の人に感動を与え続けている大谷選手も、20年前は皆さんと同じ小学生でした。小学校の頃から、学校での学習面や生活面において、目標を掲げ、仲間と共に一生懸命取り組んだそうです。同じくスポーツ少年団活動の野球においても、目標達成に向けて全力で取り組みました。野球をうまくするために、「体づくり」や「コントロール」「スピード160キロ」「変化球」「キレ」などの技術だけでなく、「メンタル」「運」「人間性」などの目標も掲げ、そのために、感謝、仲間を思いやる心、波をつくらない、あいさつ、ゴミ拾い、礼儀、継続力、道具を大切に使うなどの具体的な行動目標を明確にあげています。千原っ子の皆さんも、大谷選手をまねて、目標達成に向けて今自分ができることをコツコツ頑張って取り組んでもらいたいです。



### ◆私たちは 誰かに 支えられて 生きている!

11/14のお話朝会。「私たちが安心安全に何不自由なく生活できていることは、当たり前ですか?」と問いかけ、私たちは、親や友達、先生方、地域の方々など、誰かに支えられて生きていることを確認しました。

では「当たり前(あたりまえ)」の反対の言葉は何ですか? 「有り難し(ありがたし) ⇒ 「有る」ことが「難しい」 ⇒ 「有り難う(ありがとう)」」。つまり「あたりまえ」の反対の言葉は「ありがとう」なのです。学校や家庭、地域で「ありがとう」の言葉がいっぱい生まれてほしいです。これまで、誰かに支えられていたことが多かった私たちですが、これからは誰かを支えてあげられる人になりたいですね。



### ◆もう1回 がんばることができる自分になりたい!

12/12のお話朝会。「電球を発明した人を知っていますか?」と問うと、千原っ子の多くの皆さんが「エジソン」と即答してくれました。1,300以上の発明をしてきたことからトーマス・エジソンは発明王と呼ばれ、「蓄音機」「動画撮影機」「電球」は三大発明と言われ、現在の私たちの生活にもつながっています。中でも、電球を長い時間点灯させるために、10,000回も実験を繰り返し、偉大な名言を残しています。

「I have not failed. (私は失敗なんかしていない。この方法では、電球は光らないという発見を今までに1万回してきたのだ。それは失敗ではなく、その方法ではうまくいかないことがわかったんだから成功なんだよ。私たちの最大の弱点はあきらめることにある。成功するのに最も確実な方法は、常にもう一回だけ試してみることだ。)」自分の目標に対して、もう無理だと思ったところから、さらにもう1回がんばることができる自分になりたいですね。

